

## ティム・ウォームの報告書

北國新聞の研修記者

2010年6～7月

日本の社会や独特な文化を味わいたいという意欲で、北國新聞の研修に申し込みました。色々な取材を通して石川県議会や裁判など外国人が行かないところを訪問し、日本に理解を深めました。新聞記者の仕事は残業がたくさんあり、大変らしいので、忙しそうな記者に負担をかけたくなかったが、逆に入社し、午後9、10時まで働く記者が笑顔で手伝ってくれました。2年間しか日本語を勉強しませんから、日本語で記事を書くことは難し過ぎると思いましたが、予想していたよりよくできました。同僚が記事を書くプログラムやカメラの操作方法を教えてくれ、記者の仕事にすぐ慣れました。自由に記事のテーマを選ばせてくれ、自分で取材させてくれました。いろいろと行きたかったところに行かせてくれ、私が見に行きたいところの一つは裁判所で、警察担当記者と一緒に傷害で訴えた受刑者の裁判を経験しました。

### 取材経験

初めて取材した時、金沢ふるさと偉人館に行き、記者の話がよく分からなかったので、一生懸命新聞や記事の単語を勉強しました。毎日取材に行く前にデータベースで過去の記事を調べ、役に立つ単語などを学び、聞きたい質問を作りました。例えば、囲碁授業に取材する予定があれば、碁石や陣地という言葉が分かることは必要で、先生や子供たちにどんな質問をすればいいかを考えました。このインターンシップのおかげで、いろいろな偉い人に会うことができました。6月にドイツのフォルカー・シュタンツェル大使の会見に行く機会をいただきました。会見の後で、私が目指している外交官の仕事について話し、大使が助言をくださいました。

### 私が書いた特集記事

私にとって面白いことについての記事を書いたらいいと言われ、それについてよく考えました。最初書いた記事は生け花や芸妓についての記事で、素囃子という音楽や独創的な華道作品を鑑賞しました。21世紀美術館で華道愛好者は生け花の古代流派から近代的なスタイルに至るまで細かに話してくれ、日本の独自の伝統文化に触れました。

私が学ぶジョージタウン大学はカトリック教のイエズス会の大学で、カトリック信徒なので、近代の金沢のカトリック教ばかりでなく金沢のカトリック教の歴史も学びたかったです。日本のミサやアメリカのミサの違いについての記事を書くつもりでしたが、神父様や研究者に取材すると、全然違うテーマについての記事を書くことにしました。キリシタン大名の高山右近についての記事は、初めて自分で取材しました。キリシタン研究者の木越さんに取材し、2時間で高山右近やカトリック金沢教会について話し、1854

年に私の出身地のメリーランド州で高山右近を主人公にした小説が出版されたことを知りました。この小説をインターネットで調べ、全部読んで、記事を書きました。日本の研究者はこの英語で書いた本をまだよんでいないらしいので、私の記事は先頭な研究かもしれません。

三つ目の記事は日本の血液型人格分類の迷信についての記事です。歓迎会で、私が自分の血液型が知らないことを聞くと、同僚や上司が驚き、なぜそんなにびっくりしたかが分からなかったのので、それについての記事を書きました。日本人が血液型に興味があるので、金沢と関係を探し、血液型の迷信を普及した人は金沢で育ったことを知り、面白い記事を書くことができました。

その三つの記事のほか、クールビズの記事も書きました。北國新聞はクールビズを導入することを聞き、どんな意味があるかを知りたいようになり、取材に行きました。去年のホストファミリーのお兄さんのクールビズを導入した会社で取材し、クールビズや米国のビジネス・カジュアルの流行についての記事を書きました。



特集記事ばかりでなく、短い普通の記事を書くことも私の研修の一つでした。忙しいのに記者が記事の基本的な書き方、よく使う単語、記事の送信方法などを解説くれました。私が書いた全ての記事は新聞に載りませんでした。時々新聞を読み、私の記事を見て驚きました。残念なことに、私の名前や写真は短い記事に出ませんでした。

私が日本とアメリカの親善関係を作る目的としてアメリカと日本の文化や社会の関係や違いについて書きました。新聞に載った記事を通して注目を集めるようになりました。道やバスで知らない人から「あなたが書いた記事を読みましたよ」、「頑張ってください」など声を掛けられました。ファンから手紙ももらい、うれしくなりました。なぜ私に手紙を送ったかが分からず、そんなに有名になったことを知りませんでした。

この研修のおかげで、記事の書き方を学び、日本語の能力が上達し、日本人の友達を作り、古代や近代の日本社会を体験しました。同僚や部長などは歓迎会を開いてくれ、記事を直してくれ、お世話になりました。絶対忘れない経験がたくさんあり、この機会をくださって本当にありがとうございました。